

幾何学演習レポート問題2 (2011年6月13日) 略解

担当: 境 圭一

1. (1) $\frac{\partial g}{\partial r} = \frac{\partial f}{\partial x} \cdot \frac{\partial(r \cos \theta)}{\partial r} + \frac{\partial f}{\partial y} \cdot \frac{\partial(r \sin \theta)}{\partial r} + \frac{\partial f}{\partial z} \cdot \frac{\partial z}{\partial r}$ より, $g_r = f_x \cos \theta + f_y \sin \theta$.
同様に, $g_\theta = -f_x r \sin \theta + f_y r \cos \theta, g_z = f_z$.

(2) (1) より

$$\begin{pmatrix} g_r \\ g_\theta \\ g_z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta & 0 \\ -r \sin \theta & r \cos \theta & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} f_x \\ f_y \\ f_z \end{pmatrix}$$

であることがわかる. よって $f_x = f_y = f_z = 0$ となる点においては, $g_r = g_\theta = g_z = 0$ となることがわかる.

(3) (2) の 3×3 行列を A とすると, $\det A = r$ である. $X = \mathbb{R}^3 - \{z \text{ 軸上の点} \}$ においては $r \neq 0$ だから $\det A \neq 0$. よって A^{-1} が存在し

$$\begin{pmatrix} f_x \\ f_y \\ f_z \end{pmatrix} = A^{-1} \begin{pmatrix} g_r \\ g_\theta \\ g_z \end{pmatrix}$$

となるから, $g_r = g_\theta = g_z = 0$ となる点では $f_x = f_y = f_z = 0$ となる.

2. (1) M は図1のようなトーラスである. xz 平面での切り口は, 半径1の円.
 (2) $f_r = 2(r - 2), f_\theta = 0, f_z = 2z$. これらがすべて0になる点は, 円柱座標で $(2, \theta, 0)$ (ただし θ は任意).
 (3) (2) より, f の臨界値は $f(2, \theta, 0) = -1$ のみ. よって0は正則値だから, 講義の定理4.1より, $M = f^{-1}(0)$ は滑らかな曲面である.

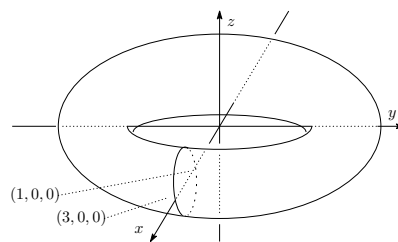


図1: トーラス

(コメント) 出来は良かったようです. 1. (2) の行列 A が逆行列を持つことを述べる時「 $r \neq 0$ だから」ということをひとこと注意してください.